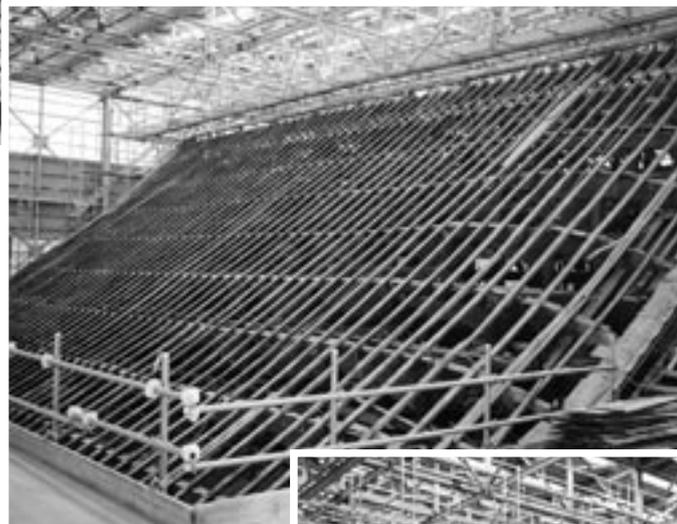


# テンパス



TEMPUS

2006年(平成18年) **24**号



## もくじ

平成17年度の埋蔵文化財調査

貝塚市郷土資料展示室

企画展3「貝塚市内の神社と絵馬」

特別展「ぼっかんさんの平成大修理Ⅰ」のお知らせ

三ツ松北垣外遺跡の調査

古文書講座

「願泉寺と貝塚寺内③」

八品神社 櫛資料室

古文書をひも解く

願泉寺本堂修理のようす

# 平成17年度の埋蔵文化財調査

平成17年度の発掘調査は12月末日現在、遺跡内の確認調査を37地点、遺跡範囲外の試掘調査を18地点行ないました。

このうち、半田遺跡、森下代遺跡の各調査区において古代の遺物包含層（土器などを含む地層）を海塚遺跡、久保遺跡、木積観音寺跡、王子西遺跡、堤西浦遺跡、脇浜遺跡、半田北遺跡、窪田遺跡・窪田廃寺の各調査地において中世の遺物包含層を確認しました。試掘調査により久保遺跡（久保地内）、脇浜遺跡（脇浜地内）、窪田遺跡・窪田廃寺（王子地内）については遺跡範囲の拡張を行ない、半田ヨコマクラ遺跡（半田所在）、堤西浦遺跡（堤所在）については遺跡包蔵地として新規登録しました。今年度、実施した発掘調査について、主な調査成果を紹介します。

## はんた 半田遺跡（半田所在）

半田遺跡は近木川右岸にある弥生時代～古墳時代にかけての遺跡です。調査地において、7世紀～8世紀の掘立柱建物の柱穴を約20基発見しました。これらの柱穴は調査区断面や切り合い関係により、建物は2～3回の建て替えが行なわれていたものと推測されます。今回の調査地の北側隣地において、平成10年・11年に調査を行なっており、7世紀～8世紀にかけての掘立柱建物の柱穴、流路を発見しています。半田遺跡の北方向には、7世紀に創建された古代寺院である秦寺が存在していたと考えられ、今回の調査により発見した掘立柱建物の柱穴などは、寺院の周辺に存在した集落跡と推測されます。



半田遺跡の調査

## もりしもだい 森下代遺跡（森所在）

森下代遺跡は、近木川の右岸にある中世の遺跡です。調査地において、古代の遺構である柱穴2基、落込み状遺構と中世の遺構である柱穴1基、鋤溝、杭跡を発見しました。今回の調査地とその周辺において古代と中世に掘立柱建物が存在していた可能性があります。



森下代遺跡の調査

## くぼた くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺（窪田・王子所在）

窪田遺跡・窪田廃寺は、近木川左岸にある弥生時代から中世にかけての遺跡です。調査地において、溝1条を発見しました。遺物は土師器、瓦器が出土したことから、溝が埋まった時期は中世と推測されます。発見した溝は、中世の農地に伴う水路と考えられ、北東から南西方向に設けられており、現在の水路とは方向性がやや異なっています。



窪田遺跡・窪田廃寺の調査



# 企画展3「貝塚市内の神社と絵馬」



本展は平成17年11月24日(木)から12月22日(木)まで開催しました。本展では、貝塚市内の神社のうち、王子・南近義(みなみこぎ)神社が所蔵する三十六歌仙図(さんじゅうろっかせんず)絵馬2面、久保・阿理莫(ありまか)神社が所蔵する馬図絵馬2面・参詣図(さんけいず)絵馬2面、沢・八品(やしな)神社が所蔵する櫛形絵馬1面、脇浜・高竈(たかおかみ)神社(脇浜戎大社)が所蔵する馬図絵馬1面・百人一首(ひやくにんいっしゅ)絵馬9面・参詣図絵馬1面の計18面の絵馬を展示紹介しました。

市民のみなさんはもちろん、多くの方々に市内外からご来室いただき、219名の観覧者数を数えました。



展示会のようす

展示期間中には、第75回かいつか歴史文化セミナーとして、12月18日(日)に現地見学会「八品神社・高竈神社をたずねて」を開催しました。見学会では、両社の歴史的背景を説明するとともに、八品神社では木櫛の製作過程や製作見本類・道具類・つげの原木などを展示した櫛資料室(7頁参照)を見学し、沢町会の委員の方々に展示品についてご説明いただきました。また、高竈神社では展示品以外の百人一首絵馬のうち26面の絵馬を見学していただきました。見学会当日はこの冬一番の寒さだったため参加者は16名と事前の申し込み人数より少なかったのですが、新しくできた櫛資料室や百人一首絵馬の実物を間近で見学できたことで見学者の方々には好評を得ました。



八品神社



高竈神社

平成17年度貝塚市郷土資料展示室企画展3 図録

## 『貝塚市内の神社と絵馬』刊行のお知らせ

上記企画展の展示図録を刊行しました。本書では、展示解説および展示品の全ての図版を掲載しています。

お求めは社会教育課または郷土資料展示室まで

A4判8頁 一部100円



# 特別展「ぼっかんさんの平成大修理Ⅰ —重要文化財願泉寺附築地塀解体の成果—」のお知らせ



願泉寺築地塀（南築地塀）

平成18年2月4日(土)から3月26日(日)にかけて、上記特別展を開催しています。

願泉寺の半解体修理の経過につきましてはテンプスでも何度かご紹介しておりますが、平成17年11月中には本堂の屋根瓦も全て取り除かれ、いよいよ本堂の木造部分の解体作業が本格的にはじまりました。本展では、7年をかけて行なわれる願泉寺の半解体修理の概要と、平成16年7月より工事車両の進入路確保のために本堂の解体に先駆けて行なわれた築地塀の解体にともなう調査成果を中心に展示を行います。展示では、築地塀に使われていた木材の一部や葺かれていた各種刻印瓦のほか、願泉寺築地塀に関する普請関係の古文書類を展示し、写真パネルによって築地塀の解体過程などを紹介しています。ぜひ、この機会にご観覧ください。



築地塀の解体作業

また、展示期間中の3月26日(日)午後2時より、第76回かいつか歴史文化セミナーとして、山岸常人氏（京都大学大学院工学研究科建築学専攻助教授）を講師に迎えて記念講演会を貝塚市職員会館多目的室にて開催いたします。詳細は市広報、ホームページなどでご確認ください



展示会のようす

平成17年度貝塚市郷土資料展示室特別展図録

『ぼっかんさんの平成大修理Ⅰ』刊行のお知らせ

上記特別展の展示図録を刊行しました。本書では、展示品の図版および詳しい解説などを掲載しています。

お求めは社会教育課または郷土資料展示室まで

A4判16頁 一部200円

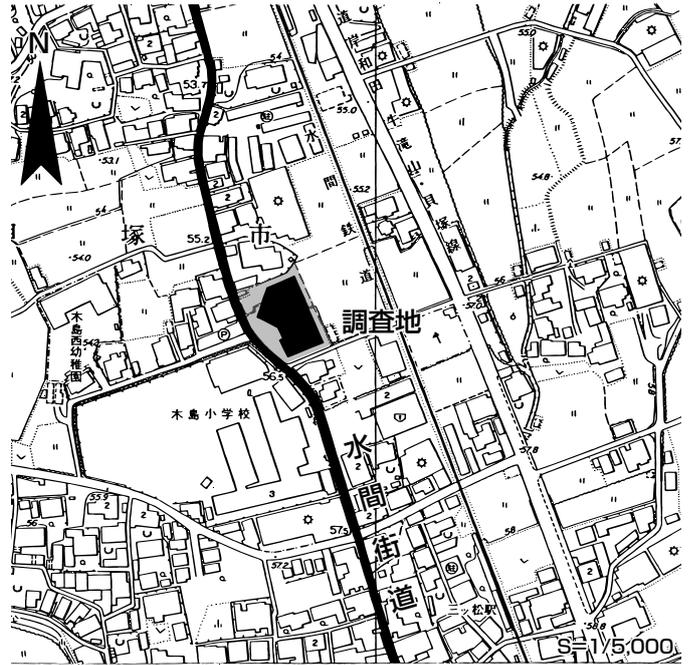


み つ ま つ き た が い と

# 三ツ松北垣外遺跡の調査

平成17年11月～平成18年1月にかけて三ツ松北垣外遺跡の発掘調査を実施しました。場所は、市立木島小学校の北側で水間街道沿いという歴史적으로見ても古くから人々が生活していたと考えられる地域です。

調査では中世の耕作に伴う溝、鋤溝を発見しました。遺物は遺物包含層から平安時代の黒色土器、溝から中世の土師器、瓦器が出土しました。出土遺物から平安時代に調査地周辺に集落が存在した可能性があることがわかりました。黒色土器は市内では小さな破片が発見されることはありますが今回のような出土点数が多いことは珍しいことです。発見した遺構からは中世のころには地形改変により農地として開墾され、その後何度も区画をかえながら利用されてきたことが明らかとなりました。



溝

鋤溝

溝

溝

溝

# 古文書講座

## ◆「願泉寺と貝塚寺内③—宗教と政治のはざま、本願寺と寛永寺—」

平成18年1月7日(土)から5回にわたり、「願泉寺と貝塚寺内③—宗教と政治のはざま、本願寺と寛永寺—」と題して古文書講座を開催しました。

平成16年度より、願泉寺の本堂等重要文化財建造物の半解体修理がはじまったことに関わって、願泉寺に残る古文書をテキストにしたもので、今年度3期にわたって「願泉寺と貝塚寺内」を共通のテーマとして取り上げる締めくくりの講座です。

今回の講座では、江戸時代に入ってから、教義上は願泉寺の本山であった本願寺と、4代目了周以来代々剃髪得度(ていはつとくど・髪を剃り僧侶となること)した寛永寺との関係に注目し、願泉寺が



講座風景

宗教的、政治的にどのような位置に置かれていたのか、史料から読み解いていきました。

参加者の方々からは、「地元の資料、テーマで面白い」との声や、「願泉寺と寛永寺の間に結びつきがあるとは知らなかった」「江戸時代は権力によって政治的にがんじがらめに押さえ付けられた大変な時代ですね」といった感想が寄せられました。

### やしな 八品神社 櫛資料室

本誌4頁の記事でも紹介しているように、櫛の神さまとして有名な貝塚市沢の八品神社の櫛資料室が平成16年12月より公開されています。資料室は神社拝殿(はいでん)内の倉庫を改修して設置され、本市の名産品のひとつである「和泉櫛(つげ櫛)」



資料室内のようす

についての関係資料を展示しています。木櫛の製造工程が写真パネルなどによって紹介されているほか、沢町会の委員の方々が苦心して収集された櫛の見本品や原材料となるつげの原木、製造時に使用する道具類などが展示されています。八品神社の見学と合わせて、ぜひ一度足をお運びください。

開室日および開室時間：毎月1日・15日の午前9時～12時

八品神社へのアクセス：南海本線二色浜駅下車西へ徒歩約15分、  
南海本線貝塚駅下車南西へ徒歩約45分

お問い合わせ：沢町会館 電話(0724)31-9691



# 古文書をひも解く

## 願泉寺と寛永寺の結びつき

古文書講座21「願泉寺と貝塚寺内③—宗教と政治のはざま、本願寺と寛永寺—」で取り上げたテーマから、願泉寺と結びつきの強い寛永寺との関係について紹介します。

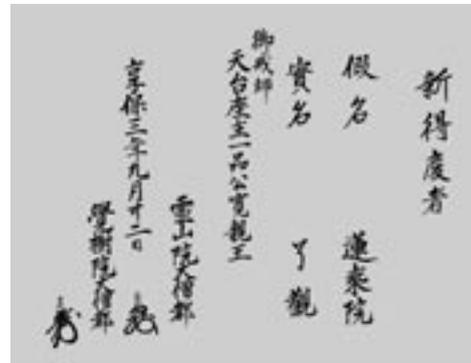
寛永寺は、現在東京の上野公園に隣接する一寺院として残されていますが、江戸時代にはその上野公園を含む忍岡（しのぶがおか・上野山）一帯に広大な敷地を持ち、大名たちが競って諸堂を建立したため、壮麗な大寺院となりました。そもそも、徳川家康が帰依していた僧侶天海（てんかい）が元和8（1622）年江戸幕府よりこの地を与えられ、幕府の監督・援助のもと寺院の建立を開始し、寛永2（1625）年本坊を完成させたのが始まりです。家光をはじめとして歴代の徳川将軍の廟所（びょうしょ）でもありました。

願泉寺2代了閑（りょうかん）とこの寛永寺の住持である初代輪王寺宮門跡公海（りんのうじのみやもんぜきこうかい）とが遠縁にあたる関係から、了閑の孫でのちの4代了周（りょうしゅう）が寛永寺で公海を戒師（かいし・出家する人に戒を授ける僧）として剃髪得度（髪を剃り僧侶となること）を行いました。さらに、「真教院（しんきょういん）」の院号、「金涼山（きんりょうざん）」の山号を授けられ、浄土真宗の教義以外は寛永寺の支配下となりました。

宗派としてみた場合、寛永寺は天台宗であり、江戸時代には「東叡山（とうえいざん）」の名前が示すように、東の比叡山として、天台宗の頂点にある天台座主（てんだいざす）の地位を確立していきました。これに対して、願泉寺は浄土真宗であり、寛永寺とは宗派を異にします。異なる宗派であることが持つ意味とは何でしょうか？これには、願泉寺が貝塚寺内の地頭（領主）の地位を安定させるため将軍家の菩提寺である寛永寺の支配下になったとする政治的理由や、浄土真宗の教団内部における願泉寺の地位を引き上げるため、浄土真宗の門主に対し、「門跡」を与える立場である天台宗門跡と親密な関係を結ぼうとする宗教的理由などが考えられます。



寛永寺境内（江戸名所図会より）



## 編集後記

今年の冬は、雪が降ることもあり、寒くてたいへんでした。冬の発掘調査は2年ぶりのことですが、ここ数年暖冬続きでこれほど寒い冬は体験していなかっただけにかなり堪えました。

## かいつか文化財だよりテンプス24号



平成18年2月28日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel (0724) 33-7126 Fax (0724) 33-7107

Email : shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷 (株)和歌山印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：67.20円